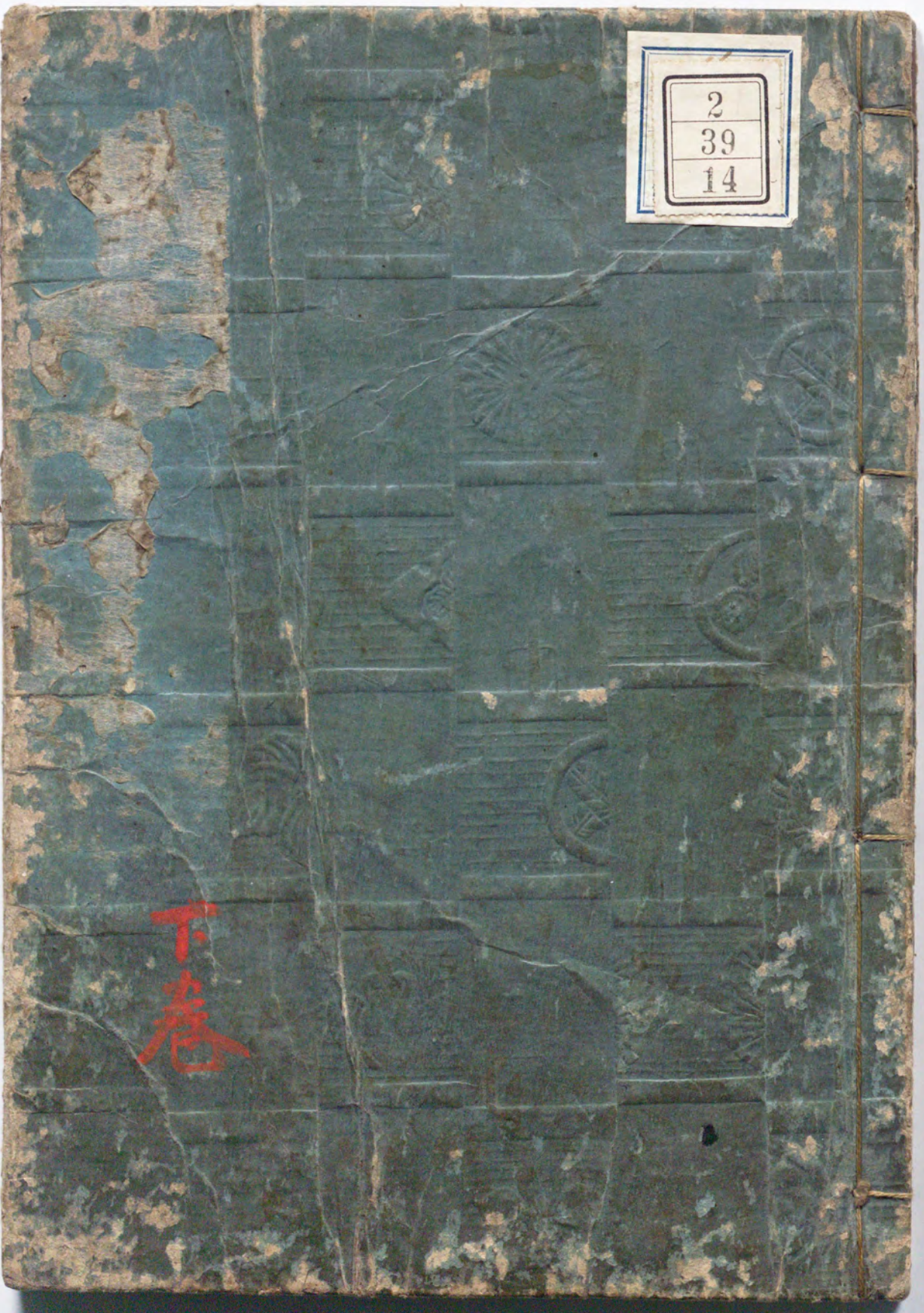
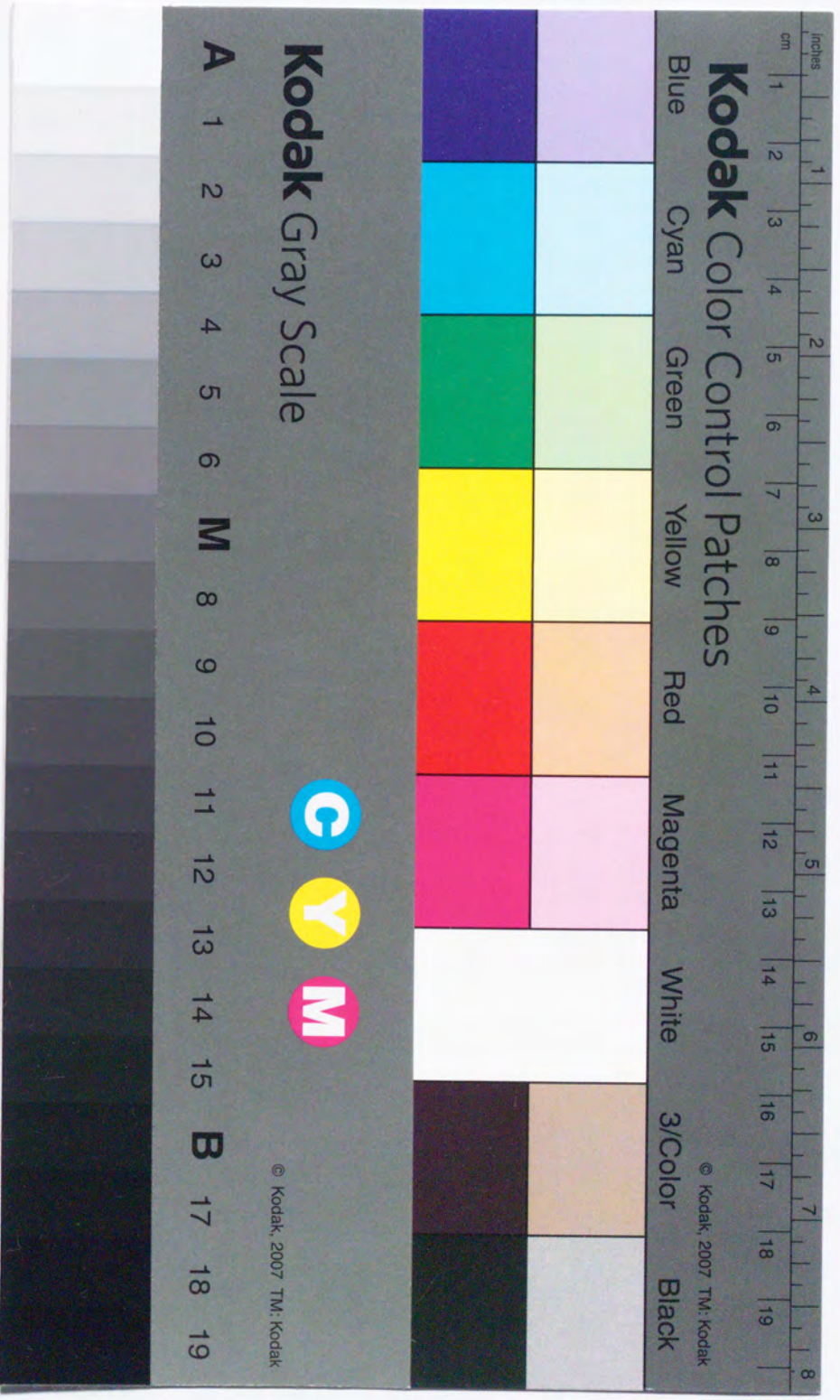




目下
孔家寺所待





良夜之圖

山亭人

夜ふとて

その夜ふ

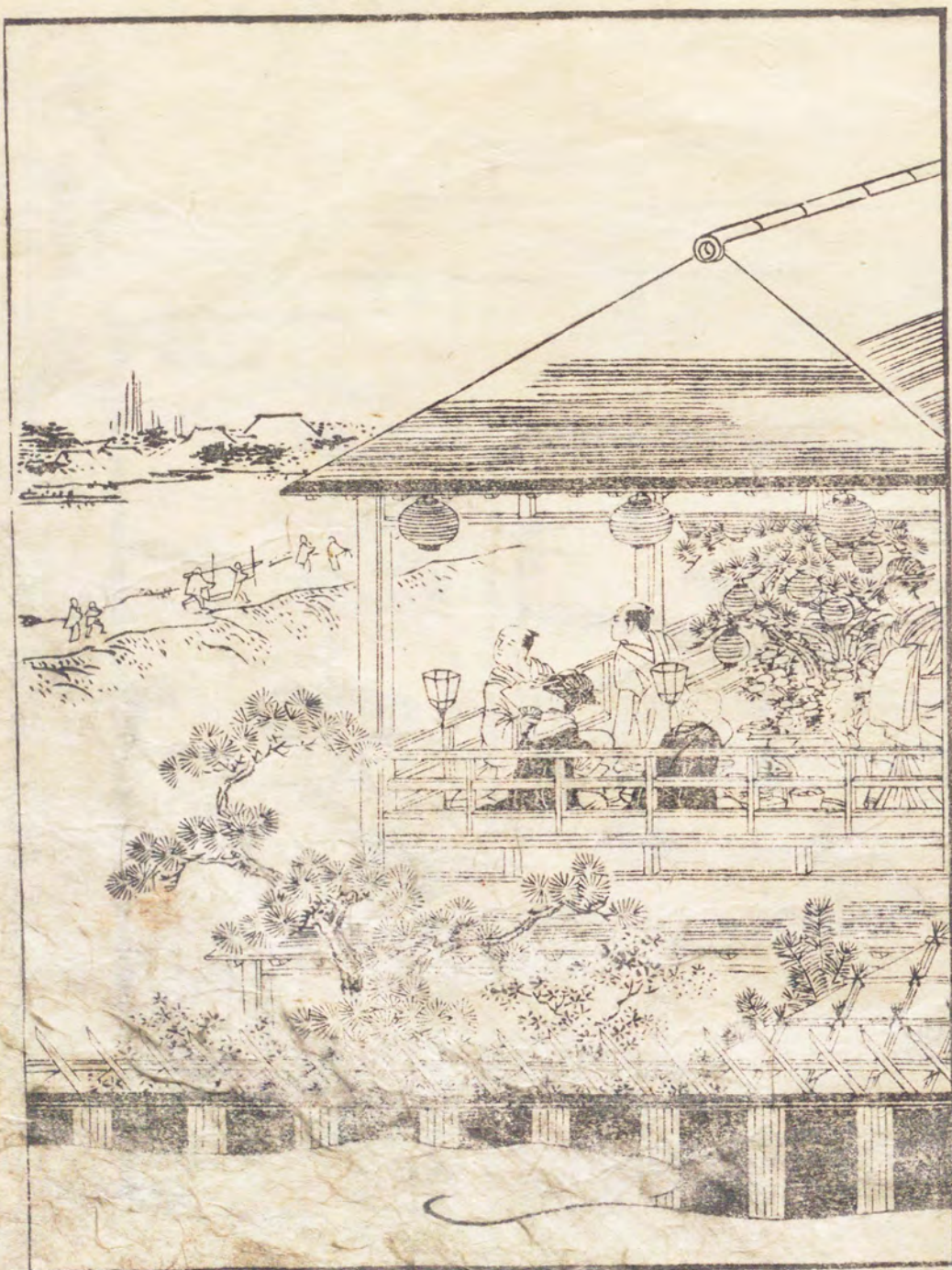
りて

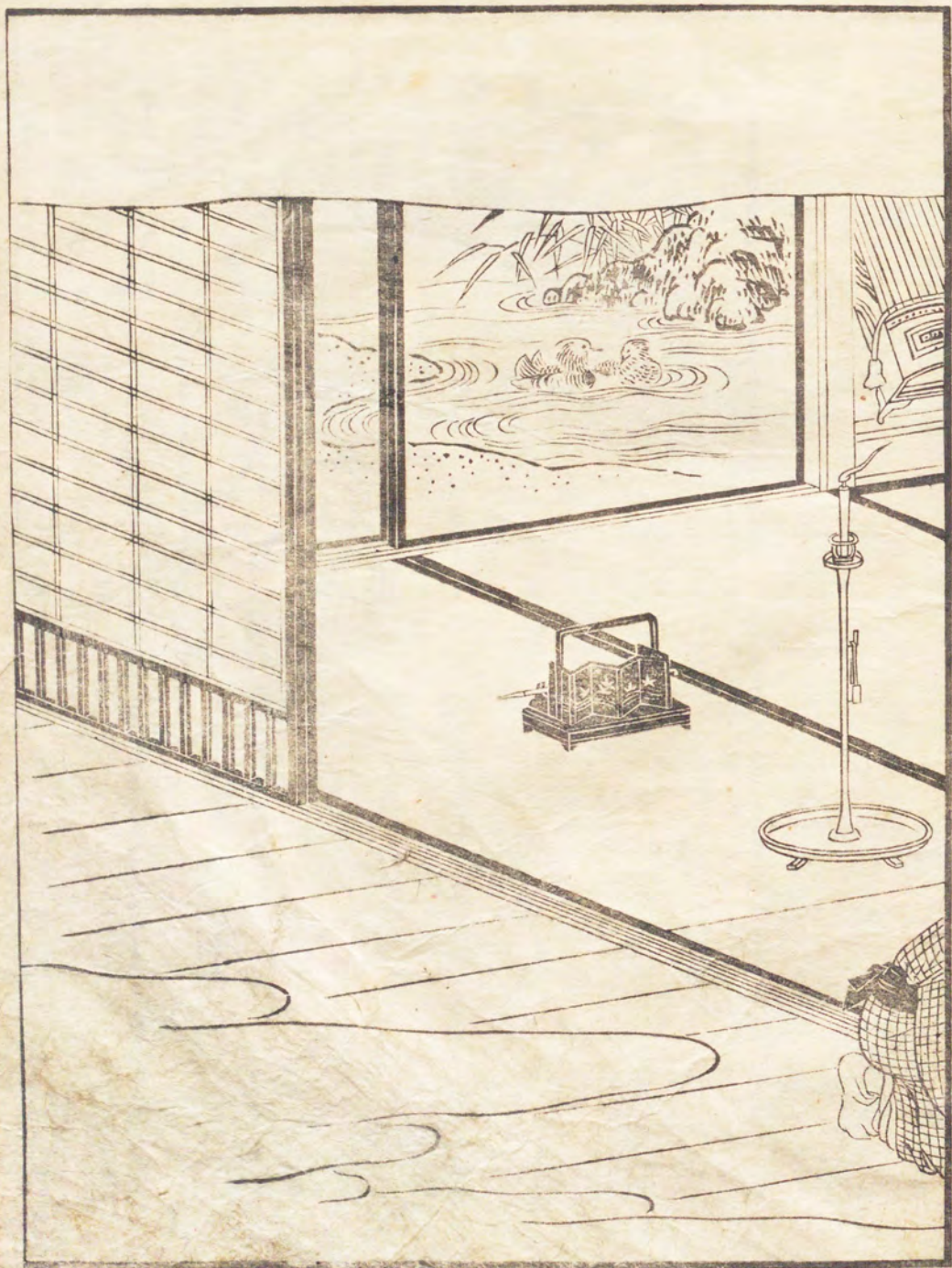
とて

未だ

はか

た





初會之圖

茶屋男

客人

押客之堅鋪



谷上

今三

八

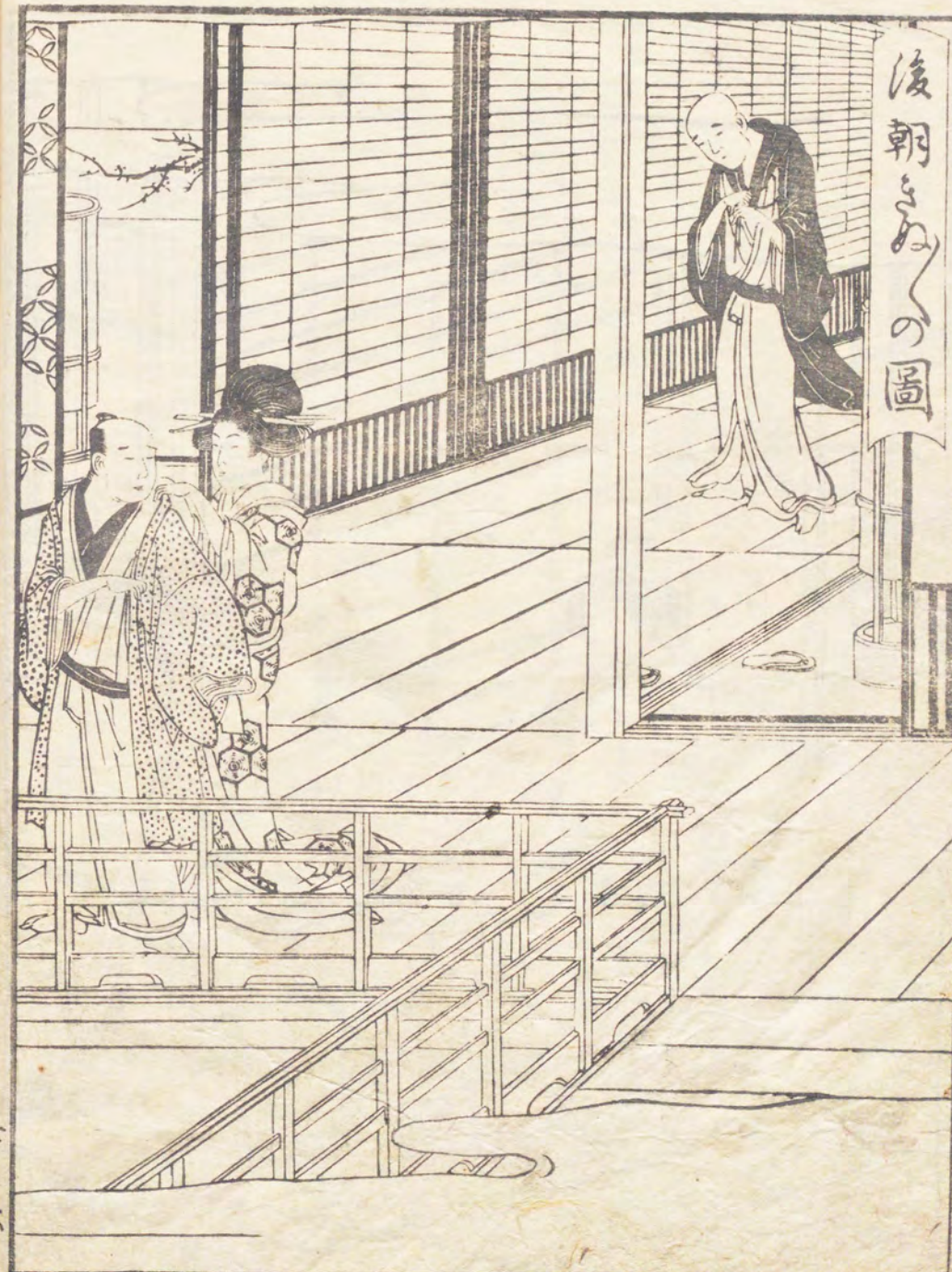
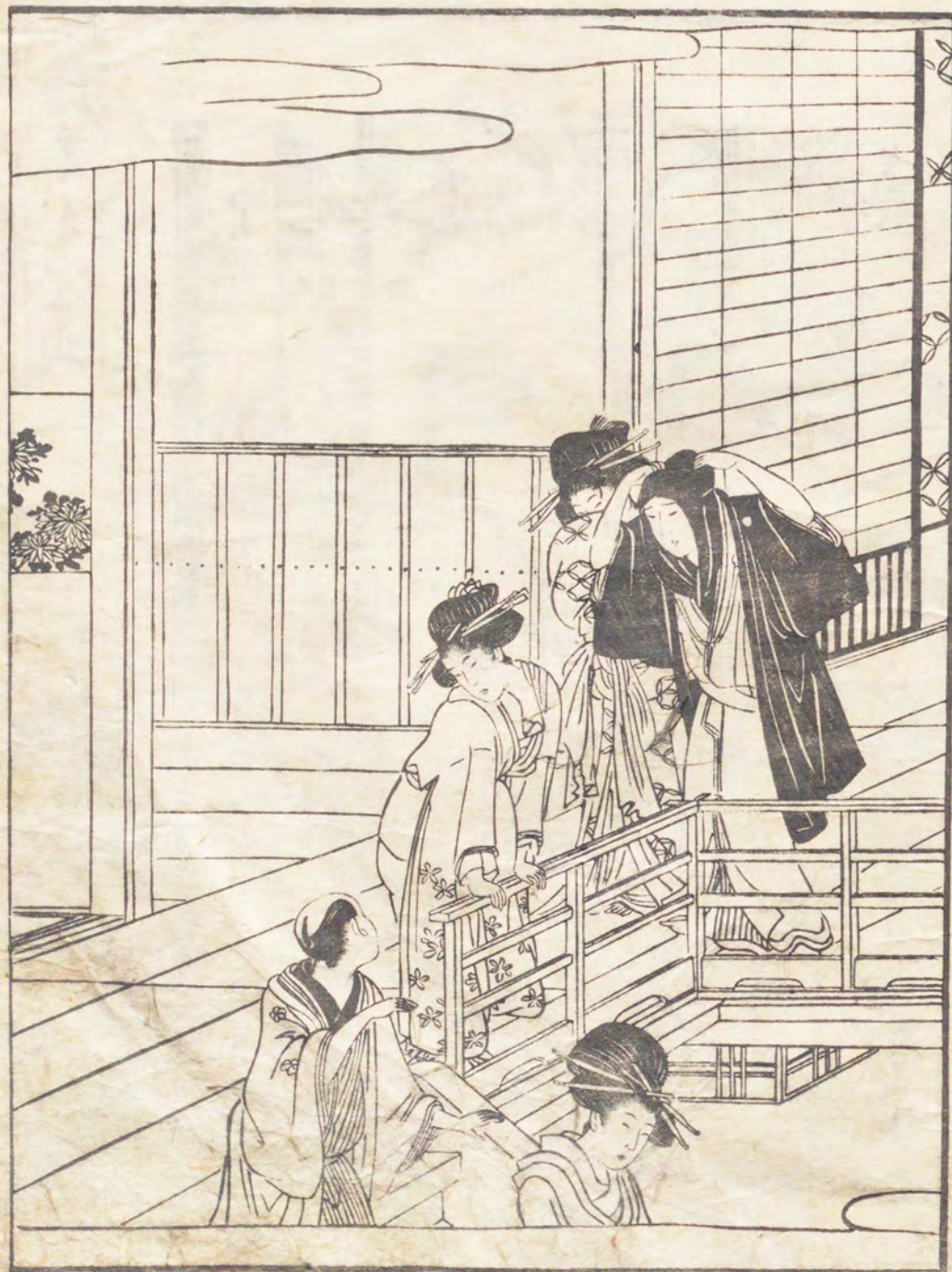
未由

イ口客

二







倡家之浴式







偈鋪張付彩工圖

施

曲中は名をうけ家名を成せお家解の年中の月と。
 万屋を解き来しうと登り。今の外村伊勢方の信越の金
 相屋磨ら。山屋市右衛門親也。日暮お母。
 ねる。お母。お母。お母。お母。お母。お母。お母。お母。
 又所のて溪と元祖。大羽子板ハ油をやの
 馬をうと登り。お母。お母。お母。お母。お母。お母。お母。お母。
 風を。山屋の。お母。お母。お母。お母。お母。お母。お母。お母。
 因の。お母。お母。お母。お母。お母。お母。お母。お母。
 ちり。お母。お母。お母。お母。お母。お母。お母。お母。

といへる全蓋壇をがひきりきりぐハ翔級りひ日の
物すき来中。ほく云か世何来の仲の町へ来りし
ゆ。もつたふす垢の俣すいあて。其のハ絲を糸をほねふハ
皆白むくともあるよりしその
表きやの近むかひよ中る様さまひ定ふ整容えんよう纏繞とまくで
本もと子花の目とやうあつぬはきさううなればよあ入
はぐいするあ。高橋たけはしづ風ふうぬを捉とて感かん当とうをせし
とやうそふ倣なまてハ翔はうハ。響きやうる毎まいあふふを垢と
中なかつる者ものあ。あつううなれやう。大全だんぜんふ起し。ど全
うえんえんちやうの脱だつあうん起おけ。うう其次の時とき花はな唄うたふ。あ
日ひういもあううけて。あともあともいいれぐぞ。あき馬うまう

[illegible]

紫^{むら}同^{どう}士のの^をほ^ほし^しな^なづ^づま^まる^る不^ふ高^{こう}輝^きり^りて^て淫^{やん}多^{せい}清^{きよ}く。
 神^{かみ}と^と晒^ひ山^{さん}と^とあ^ある^るふ^ふや^やど^どと^とを^を月^{つき}必^ひず^ずあ^あと^と結^{むす}く^くを^を女^めら
 小^こして^{して}軍^{いくさ}中^{ちゆう}を^を路^{みち}を^をた^たつ^つ。或^{ある}は^は離^{はな}れ^れと^とよ^よび^ひ先^{せん}を^を
 振^ふり^り。何^{なん}も^もう^うあ^あれ^れ若^{わか}者^{もの}を^を若^{わか}老^{らう}の^の如^{ごと}く^くと^とや^やこ^こも^も。ふ^ふづ^づの^の
 忌^き留^{りゅう}み^みの^の女^め帝^{てい}ハ^ハと^とじ^じて^ては^は女^め帝^{てい}あ^ある^る。或^{ある}ハ^ハあ^あむ^むと^と
 な^など^ど吞^のみ^みた^たつ^つ。そ^その^の顔^{かほ}ハ^ハい^いま^まも^も。常^{とこ}緑^{りよく}の^のあ^あら^らと^と尻^{しつぽ}
 同^{どう}の^のけ^け。ど^どう^うや^やと^とい^いふ^ふ女^め帝^{てい}ハ^ハ。そ^その^のあ^あら^らと^と振^ふり^り
 生^{せい}花^かと^と。さ^さげ^げし^しむ^むの^の公^{こう}あ^あら^ら。産^うむ^むる^る女^め帝^{てい}の^の女^め帝^{てい}
 と^とお^おま^まは^はし^し。此^{こゝろ}の^のう^うち^ちハ^ハあ^あら^らと^とあ^あら^ら。そ^その^のあ^あら^らは^は客^{きやく}の^の
 る^ると^とい^いふ^ふ女^め帝^{てい}ハ^ハ。き^きハ^ハあ^あら^らと^と産^うむ^むる^る女^め帝^{てい}ハ^ハ。さ^され^れと^とい^いふ^ふ

強て喰ふが。程は仕忌松社をさせ。あるハ
 款は茶室と違ふ。あるハ常よりきつ縛し。そのハ
 の一でうかう。
 四宮主お喋して時をくも。客をあかともな
 くく。空板と凌ぎ茶をとらずは推も肯む。何
 家の望安持投擲して。あかして。そのあ殺ま
 あひ。打ちも若いのをね。茶屋と噂よせ相
 談し。志のどろあそ是れと伝し。娘は居て
 あやま。
 得るあハ九百もの一の振のおぐ。他人よん
 茶室の判はさすの牡丹牌や大なり。此中
 のをかきて。やりも若生心は狂奴をまかり。或ハ

押客の堅舗

花とうち。仕差を出し。女帝は仕舞と決けて帰朝
客大門とせりて。倩^{つひ}とせり。世^{いせい}もろよ何の代^よもも
わかれよの倡^{うた}あふりて。ハキ^{りい}に水^{みづ}分^{ぶん}ぬきとく。女帝
あふ金の利^{かえもん}を得^えき。客の強^{あまう}ゆるし。い^いおし

男おとこ女めの情なさけもひそくは違ちがうとていふ物ものありて
やふふ一いっ其その交まじさとかのひ佐さなる物ものとかも。承うけ元もと我われ
と指さしあう。ちとれをいふをかりひなり。浅あ芽め々々々々と
むうとぬぐさそ色いろ好このむといふをえと。佐さ外がへ
いふがめ。ちとれはふも情なさけあり。されや偏ひと妓こは情なさけ

[illegible]

色世^{いまた}荒^{あら}して。情倦^{いぢゆう}忽求^{いつもと}衣蔽^{いも}生^なて。金尽^{かねじん}以^{もつ}示^し歡宴^{かんえん}
て。和^わ殷^{いん}。宮^{みや}を^{おと}井^いと^{おと}設^{しやう}るの所^{ところ}で。倡^{しやう}求^{もと}の薄^{はく}
倖^{しやう}。亦^{また}令^{しやう}怖^{おそ}る^はる^る情^{じやう}む^むぶ^ぶの^の

一 芳子

青樓
繪抄

年中行事

大尾

青樓
繪抄

十返舎一九編輯

年中行交後編

全部二冊返刻

この年
此書は今初編に次ぐ名目内装の佳式宝引
七種を満筆し紀初午離糸あやめ乃る句
紫玉の留画留まふ七夕草市紅髪洗日留玉
免の煙を二度のはれ青菊の節句玄猪の
赤武ほけ様様餅つき木家々の格例を甚
布偶妓の宴出しよる門出に後々年明身清

の差別式ハ附ひの布めりひ引の意氣初列條
初夜代の童燈あうりひのけし紋日惹花の
活針身揚の如未まで吸出し散茶惣文あ
妓の仕状を且ちあを留まふ甚しし附録う
むしを名をて居ねるの貞実なる傳能を集て
悉く返加するものなり

於青樓仲街濱野屋
集道之樓上

十返舎一九換



江戸繪師

喜多川舎

紫屋歌麿筆

校合門人

喜久磨
秀磨
竹磨



彫刻

北藤一宗

摺工

霍松堂

北藤右衛門

享和四歲^甲

子蒼陽發兌

東武日本橋通四町目

書房

上總屋忠助壽櫻

